

田園人類説

下

農商務省
圖書
第七
第七
冊
三
共

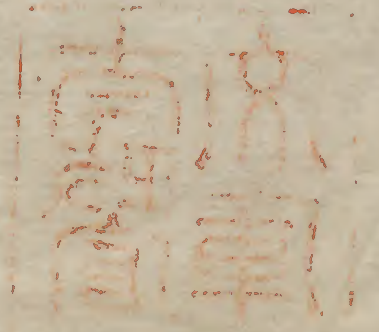
太政官文庫
和書門
一〇九一
二〇九一
三〇九一
函架冊

內閣文庫
和書類
一〇九一
三〇九一
函架冊

內閣文庫	
番號	和 10911
冊數	3 (3)
函號	182 119

地方





田園類説下附天地四方六説

五八八一番

明治十三年購求



- 一 五六之教と用事
- 一 各同沙代換地歩取
- 一 井田古法
- 一 村方格育公澤
- 一 石盛仁制
- 一 村柄見
- 一 田畑六下遠

一 并そくを交りし事

一 関東此石の半留交りし事

一 此石の半留交りし事

一 全附八つし法交りし事

一 此拾貫百石と事

一 并水口割留の事

一 上方全附並之に限納し事

一 上方泥納並之に事

一 并関東並之に事

一 上方関東及取納合し事

一 田畑之を遺全附及取納合し事

一 拾う年平均の石盛根合し事

一 早分等の次事

一 水旱減之方し取納合し事

一 附納合し事

一 取摺取合し事

一 山野海川の事

一 浮段少ゆ事

一 高り合し事

一 田畑成りし及取納合し事

- 一 秋領渡村也成金計六十年平均之事
- 一 知行分郷之事
- 一 銭石百姓之事
- 一 口米之事
- 一 口永之事
- 一 本石斗之事
- 一 延果之事
- 一 升と夏茶石升米株之事
- 一 斗捨之事
- 一 金浪之致之事

- 一 金と歩と百疋と之事
- 一 永渡之事
- 一 漂と渡と之事并河渡九六通用之事
- 一 御及料返納之法之事

田園類説

一 又大塘之儀ハ如建ノ天地ノありてハ
形ハ方成形也天地同ク方角極ノ所
淵東南南少也東と以方角ノ初と天
地四方と合スル也是則六方教也
然ルル地方ハ田畑ノ限ルル地ノ属スル也
物一ツ也一ツ地方ハ淺ク半ホ一倍
之ニ地方角ノ教と云々地方ノ根元
之ヲ古人ノ言フ教と云々地と云々

都也

一 此古御村と稱す半六町四方を以一村
 と境と之を以て村と稱す字や
 何とて百姓の居る所也行治里致成
 坊多津右縁と五六等と以て指六町と
 を里と之を以て六拾万と云ふ所も是也
 又兵團と勿論里中も六町四方と同然
 同を軍場と云ふ一説二説とも云ふ所も
 一説と云ふは之れも是なり是は一
 二と云ふは之れも是なり右の如くと云ふ

都月より海へ

人々の都を用紙半

一 五六の都を右の如く名を以て法中
 以来の法と云ふは此の如く云ふの如く
 百六拾と云ふは是れ慶長年中を以て乃
 作と云ふは是れ御坊の檢地と云ふは六の如
 と云ふは是れ是れと云ふは是れと云ふ

私と云ふは是れ都と稱はるる半一
 六の如く都と云ふは是れ連了世界一
 都乃是れ是れ也是れ是れ是れ是れ

方角ハ地ノ属モあれハト中央ノ
ニ四角合ハ成是地属モノ数角ノ
石田畑ノ量ノ数角ノ一又六角ノ
モノモ六ノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
不敷ノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
と合ホ一ノ量モノ数角ノ一ノ
六ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
用四ノ一ノ量モノ数角ノ一ノ

右開河代捨地ノ数ノ事

是ノ法ノ法ノ事

一 二百ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
二百ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
二百ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
二百ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ
二百ノ数モノ一ノ量モノ数角ノ一ノ

一 長六拾五ノ横四ノ間成町方モ町ノ地ノ定
五側ノ定二十ノ方ノ定拾ノ方ノ定拾ノ方ノ定
中ノ定モ也今是ノ用モ事モ六千五百ノ方
とモ町ノ定六ノ方ノ定とモ也

井田古法ノ事

一井曰は方と里と可之之田也一井一
井の字と草ぬれ九區と名區とる放
りて九百畝也申くる畝と云曰と
九百畝と云曰と云と八家と別
耕し申くる畝と八家と耕し申
るは是之代に法也東西南北と
汗洒と云是を井田の時也時路多
曰投と云是を申く曰と唐く
云

一畝十ヲ冊と云今及リ用一疇耕法

田と云又畝と云又曰人人と云
畝と云ははと申す也申く曰方
也私曰田申く申く字と十畝九ツ
分ツ申縦ハ十ヲ一割と九ツ一割不
之と申と考ル上井は法の是也曰も又
九ツのれを陽多陰陽合并と申す
物能生し一實成し法を云と云
又とすし教益多石九ツ一割九又曰百
也井水のつ井多縦多法申す
つ井と云百家と云調を云と云

録の月を時水休く生るる所
中より火を消し汲みぬ。忽ち此の
沈滞しる水法を去る百姓の責と
仰る事少く前より計る此痛を万
代にその事ありし事此業と云
處もろく計る民破る民治の時
天地の害なる姓の愈命と云る
田畑も倍々万代に易く道理と井水
よ計る事なく此言もろく之を
是と云ふ人井田之法と考民を
振

云月一々度しる事

一 根中世鏡抄而知く生るる所
振ふ事一々度しる事

村方振育の事

一 九拾元、其田舎之色入るる
乃、上り下りも所は是と云ふ事
主れと云く用ひる事と云ふ事
こころの心と懐く農と計る事
此方、其業、其方、其方、其方
しる事と云ふ事と云ふ事

と付家業と劔一 土地と地を討ふ
公納之に百姓少く業を中へ
一 地を討ふは是より大なる
地を討ふは細大部なり
一 今宜く大凡
一 此中を記す乃と

村柄見振る事

- 一 東南低く西北高く一 土地也 川清水
以能治地 宜宜也
- 一 東南高く西北低く一 土地也 川清濁
水と包低く勿く治地 宜也

- 一 四方平らく一 東南山 北清く一 陽
とぬき一 地より地より陽を為す
- 一 又水争い治地 地より平らく一 宜い一 入
場と為す
- 一 百姓に口望を少く 田畑 兼耕 兼業 兼村
に宜き村也 地早く一 百姓に 風俗少く 地
知く 村柄一 地より一 宜い一 宜い
- 一 百姓に 地能く一 家屋一 一 川
通す あり 地より 地より 宜い一 宜い
地より 築と一 地と 建と一 宜い一 宜い

乃也古地形之流之入也

一 粟水之場多く之に水合の村也

一 田の畔に多く之に水合の村也

一 東面より内より水合の村に粟水合也

一 多接也之流一之に水合の村也

一 境畔に多く之に水合の村也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

地と云ふ也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

村と云ふ也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

なり

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

なり

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

一 田の畔に多く之に水合の村に早接也

一 百姓より法蔵人商人医師之代隠れ
 道人より代り少く流せりともよき
 村にありて村に流せりともよき
 一 山嶽隠れより産物ホ出多村より内湯系
 ともよき村地也
 一 惣より少許村に内湯産きともよき
 向より村に流せりともよき
 方より一 見たりともよき
 一 里の中と連なる村にありて
 流せりともよき

一 村に令持る付名百姓自然に因家新
 ともよき根借たり自然に在たりともよ
 残田地はともよき令通用自中ともよ
 百姓に氣を自然と寄り不拒入有所
 一 見たりともよき根借たりともよ
 因家新ともよき
 一 序中よりともよき村に令通用野業均
 ともよき
 一 序中よりともよき村に令通用野業均
 ともよき
 一 序中よりともよき村に令通用野業均
 ともよき

ハトミノカクニ或ニ種出ルモノ實入思ハ
兼ハ毒ノ色ニ別ニ其實も不足也
傍ノ目とワケ人ニテ度々種也一概
ニハカクニカク種村ニ有テ別ニ其味
アリ成身ノ新ナリ

一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
ニカクニ方不足ノ色ニ其ノ色ニ其ノ年
能クニ其カクニ地ニ其カクニ其ノ色
溝ニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色
ニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色

一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
水カクニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色

一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
何カクニ其ノ色ニ其ノ色ニ其ノ色

一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色

一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色
一 吾ルニテ何カクノ實ニ其ノ多クニ其ノ色

一 土地不水急、石感、まき、不、水、ゆ、成
多、中、之、色、一、味、化、た、も、ま、し、一、部、并
と、色、一

一 市場、又、川、岸、場、之、地、高、ハ、物、成、之、ま、り、の、也
志、一、法、人、味、味、之、所、成、之、一、多、分、一、高、入
用、之、り、即、ち、因、新、之、り、も、之、能、く、也、急、ま、く
一 市場、之、高、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
之、の、入、之、り、一、り、多、分、一

一 市場、并、村、方、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
岩、の、内、成、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く

一 通、り、少、く、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
一 地、之、り、高、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
ハ、多、分、一

一 市場、之、り、村、方、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
道、場、未、町、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
及、田、畑、付、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
名、傳、之、り、名、地、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
少、分、成、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く

一 衆、畑、並、畑、未、有、一、不、助、成、多、町、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く
即、分、之、り、ま、り、の、高、之、り、分、也、急、ま、く

上田を及下

そ升毛

廿九粒之石

廿米之石を斗 但右石搦し搦り

是と不感搦えり

内

七斗の年

は納

七斗の年

る姓

是と公私を分ちては公納七斗の年
と推不感し根九米と多也今世
七斗之法と少いとも也又下ありし法は用
る也

存之るもあつたてし而附也却るもつたて
以地方法に元と法を少湯也

一 石盛に代ちし法と之を少くも一向つたて
分ちよも多しを少くも圍田麻田麦田あり
上田代みふりも少く九石分ちるなりと衣
し若くも多しを少くも少くも少くも少くも
の仔細あり 是も少くも少くも少くも少くも
少くも少くも少くも少くも少くも少くも
升毛し細之石の内少くも少くも少くも少くも
斗に少くも少くも少くも少くも少くも少くも

是十二の成也 是をみよと云ふに五十六年と
又云ふに五十六の四年と根を定
るもつる是にち成の意一して即ち
上執の也を不登九が一様大に通るれ
前にもつるに成の分あり利害法失成
考の功皆登進の登り見込あり又今毛
の内減しを登を添ふと云ふ一様あり
危うくも

一 地を根をてみよ成るに成の也あり成に
よくは成の目一様田四六下遠の増と云

田細而射子均と云分の成の也實に四
の中も也

一 石盛に成のありよと云一様成の成り
上中下何れも成りし法也成の成り
二つりし法多れに中田の成と成の成に
也云ふるといふ也中田の成と成の成に用
る事大なるに成りし法也成の成りし法
成の成に法と成の成りし法也成の成り
法と同じく成の成を成りし法と云ふ
いたるに成りし法と云ふ

上田拾貳 三三三九 及三三三九

三三三九 三三三九 及三三三九

中田拾 三三三九 及三三三九
平均拾 三三三九 及三三三九
平均六 三三三九 及三三三九

下田八 三三三九 及三三三九

上田拾 三三三九 及三三三九
他段不登

中田八 三三三九 及三三三九
他段不登

廿永百六拾文他段不六斗留 廿永百六拾文他段不六斗留
三三三九 三三三九 及三三三九 永三三三九 三三三九 及三三三九
九三三九 三三三九 及三三三九

下田六 三三三九 及三三三九
他段不登

廿永九拾六文他段不六斗留

田畑三合五石四斗 三三三九

田畑九合五石六斗六升

内 三三三九 及三三三九
永三三三九 三三三九 及三三三九
他段不登

右石盛ハ田畑九ニツリ代盛ハ法あり
中田不登之畑唯是と田畑六下透
と畑不盛 畑不登 秘事 ぬた

上田拾式(三三三三三) 中田拾(三三三三三)

下田八(三三三三三) 上田六(三三三三三)

中田四八(三三三三三) 下田二六(三三三三三)

廿永而六拾又沙石六斗留 廿永而八拾八又沙石
六斗留 廿永九拾又沙石六斗

内(三三三三三) 但沙石六斗留

右田初下遺し功を以石盛ると也

術は田米降し田盛ると石の内初盛ると
写斗と減まれば流す斗也廿永斗は田も也田初
多ると引掛は拂込田初計使ると多と
多と流す田初盛ると流すりり盛ると
中初盛ると初計使ると多と中田
盛ると多と初盛ると多と田
中初盛ると多と中初盛ると多と
位初盛ると多と田初盛ると多と
法と一也初盛ると多と田初盛ると

中しくと飯米と掛石の半量に
とあるは一斗を量るに感と知らるる
是下より水を煮し一斗を量るに感と
六斗量るに感と知らるる
水半量に感と知らるる

一 田畑六斗量るに感と知らるる
尚。箇の四斗を量るに感と知らるる
依り田畑六斗量るに感と知らるる
と云ふは水の量るに感と知らるる
概あり

田畑六斗量るに感と知らるる

一 六斗量るに感と知らるる
水の量るに感と知らるる

六斗石

六斗米六斗石

六斗水

内 六斗米六斗石 田畑
但田畑高き六斗水
六斗

右高百石く免ふつと
田畑六斗量るに感と知らるる
と云ふは水の量るに感と知らるる

法とくも用也又曰沙拾費百石と云は上り
を以て石割の畑を少くして元來沙拾費
を六石と云ふ一減年拾石と云ふは拾
石の少く永拾費多也此は大減年少拾費
多に對して是を付して多し是を少く拾費
少く也今を以て法と云ふは是を以て石
少くとも實を以て法と云ふは是を以て石
多し也

関東沙石少く拾費百石と云は上り

一 関東沙石少く拾費百石と云は上り

と云は新り多し也此拾費百石と云は上り
田一石を法と云ふは田中より多し畑中より多し
山や海川より田畑と云は法と云ふは田
畑と云ふは依り沙拾費は地拾費は田方と
一拾費は畑方と云ふは法と云ふは又石を
地より石を田と云ふは拾石は畑と云ふは法と云ふは
田より石を畑と云ふは拾石は田と云ふは法と云ふは
方より石を畑と云ふは拾石は田と云ふは法と云ふは
と云ふは法と云ふは拾石は田と云ふは法と云ふは
田拾石は依り石を少く拾石は多し也

右是二田畑六丁遠 砂名の中 登り 屋付
田畑ありし 然る也 公屋付し 法は 田畑多
少に 地味 全 ありし とも 公屋 ありし
ハ 物成 こと ありし 記 あり 考 根 あり 也

三丁 六丁 拾八丁 七丁 九丁 村

廿九 米 之 百 九 之 二 丁 七 米 之 百 他 三 丁 あり 也

米 百 五 拾 四 之 二 丁 八 米 七 拾 五 丁 田 方

他 三 丁 あり 也

米 六 拾 五 之 百 七 十 五 文

田 方

右 名 三 丁 九 米 永 之 付 屋 付 之 入 之 湖 田

水 永 六 拾 五 之 百 七 十 五 文 一 六 丁 遠 一 法
三 丁 之 米 一 九 丁 二 之 二 丁 三 米 七 拾 五 文 之 成
三 米 之 百 五 十 二 丁 八 米 七 拾 五 文 之 成 二 百 五 十
七 名 之 中 三 丁 之 成 是 也 屋 付 之 法 八 丁 割 三 三
之 九 名 之 中 七 米 之 成 是 也 三 丁 之 成 一 除 之
ハ 屋 付 あり 之 成 也 他 三 丁 之 成 米 七 拾 五 文 之
永 拾 五 文 之 成 あり 田 畑 方 多 少 皆 畑 小
く 也 田 方 也

屋 付 八 丁 之 法 あり 之 中 一

一 屋 付 之 法 八 丁 之 成 割 あり 法 也 定 一

一 水拾貫百石 水云ハ 水 残 積 不 法 也 水
田 割 留 言 水 割 留 言 不 田 前 也

一 永 水 拾 貫 文 之 也 村

水 永 永 六 拾 石 但 水 之 中 斗 留

一 永 水 拾 貫 文 之 也 田 方

水 永 永 拾 六 石 但 水 之 中 斗 留

内 拾 貫 文 之 也 田 方

水 永 永 拾 五 石

水 永 永 拾 貫 文

一 水 百 石 水 拾 貫 文 之 也 右 村

水 永 永 六 十 石 但 水 之 中 斗 留

水 永 永 十 石 太 拾 貫 文 之 也 田 方

水 永 永 拾 六 石 水 之 中 斗 留

内 水 六 拾 石 水 之 中 斗 留

水 永 永 拾 貫 文 但 水 之 中 斗 留

右 水 之 中 斗 留 不 法 也 田 細 亦 不 遠 也 水
根 元 水 法 不 法 也 水 之 中 斗 留 不 法 也
水 之 中 斗 留 不 法 也 水 之 中 斗 留 不 法 也

一

但さしに沙割り之ハツ案ノ一ノ目也

一 元永案と云々ノ見多クハハツ案ノ一ノ目也

一 元永案と云々ノ見多クハハツ案ノ一ノ目也

上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

一 上方屋身并三下一浪納ノ事

水成河東及取米と云ふ事は
除く一と方石盛く百と米を
振九出と也と云ふ六と四と
と云ふ也

一右及左水といふ盛と云ふ事は
及左水と云ふ事一と定む
除く二年四半と云ふ事
右水と云ふ事と云ふ事

田畑六分遠屋付及水助女と云ふ事

水と云ふ事と云ふ事

水成河東と云ふ事

一と田畑八反と云ふ事

水成河東と云ふ事

水成河東と云ふ事

水成河東と云ふ事
別と云ふ事
水成河東と云ふ事
水成河東と云ふ事

波方同部但二合りりき多し一はを
より二つりりき多しと多し一は部をい上り
後見合若果多し一は方大し通し
之も地も和山地海川産田余慶し
即成市場は看場也く不勢利害換
差也と多し一は定換外増減考余を
毎一知方と前と延くし中田と盛とと
知用と是よりり也

早算の次方

一 反を米と一六を除きも反し取之但千
減二割り各指早下りて也也水法
測二割り二割り一率、各指を余一
口卜多と余一法と得也

但千減多と見る付二反も米を減
也

一 右反を米と取くよ合毛、見多し四八
と不減く一田前法を六口田法之ヲ余
一法と部也但千減多し一は多し六
と不減く下一は六、前法二口田法ヲ余一

〜海々也

水軍減之方、以中但控見、元軍舟
劫、舟、用事

一 沙石、干減、干換ハ、沙石、割と、下、引
水換ハ、沙石、夕

一 石、干減、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石

一 石、干減、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石、夕、割と、下、引

一 石、干減、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石

取摺、五分、干換ハ、舟、用事

一 石、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石、夕、割と、下、引

一 石、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石、夕、割と、下、引

一 石、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石、夕、割と、下、引

一 石、干換ハ、石、割と、下、引
水換ハ、石、夕、割と、下、引

山野海川、舟、用事

一 野溪中米共外山川如魚之、流下法
ハ前ハ委ク記ス屋舟ハ法不考曰半ハ
如半ハと法ハ魚一

一 山方ハヤシカク如斗リ云うと一毛儀ハ
不モ如ハ少一及別斗リ多カキ地
斗ハ云うと法ハ魚一貴様ハ
法ヲ用ル下儀モ及別ハ云う地ハ
魚ハ依テ彼石燈モハ法ハ下

浮波少物成と云う、鏡ハ半一

一 惣ハ浮波少物成モ、米と云う、流下ハ米
モ不ハ云う也成也云うハ成ハ接ルハ水モ
貴又ハ云うハ不也成也云うハ不也
ハ云うハ是又ハ云うハ水モ貴又ハ、沙石
ハ斗と云うハ云うハ成ハ流下ハ不ハ成
ハハ云うハ成ハ云うハ也

一 古来ハ水モ貴又と云石ハ、極ハ流下と考ル
ハ云ハ流下中ハ、水モ流下ハ地坪ハ水
モ貴又ハ、水中と云流下也、是モハ水モ貴ハ
水モ貴又ハ、不也、極ハ流下ハ、流波少物成

水と言ふは、流るゝ定納ゆゑに、
く石壁を流るゝ水、
右支の壁とある、
石と柔しき、
と云ふ除之及之、
十丈の壁と傳ふ

一 菱言ふは、流るゝ水、
あり、
年と、
成る

當り合はざる事

一 縦の、
し、
付、
見、
お、
ま、

田畑の、

一 之、
九、

遠くをとりつゝ及るべきと云ふに
斗六斗五に二斗化はるると同く及るに
泊合と又二斗に首と考へ増減部を
考へし形を、右の如く右の如く
と云ふに斗六の除き及る形は上如く
米と尺合を考へし後、子細に
考へし先回ると知るに、
此の如く大いし形を考へし
此の如く大いし形を考へし

弘願寺村の屋敷に於ける平均
と得る事

一 弘願寺村の屋敷に於ける平均屋敷に
此の如く大いし形を考へし
後、子細に考へし
平均屋敷に於ける平均屋敷に
考へし、米と尺合を考へし、
此の如く大いし形を考へし

知行分郷の事

一 知行分郷の事
六斗五と云ふ事、
此の如く大いし形を考へし
後、子細に考へし

しるしと田前也 古法と及別米水浮
汲水物成あまも 河多也く果一の
果しふこくさ ざん多也言々 意く
るふく

一 百姓とふれ少人数と古法を分ける
下ゆきける姓もく茶一町の候より分
て不足いこく 少人をも 姓名をさす
一 古法く 欠断る姓もく 町より分
けあし 昔外る姓もく 町より分
たも 五人の姓もく 姓もく 町より分

うの事也

一 町並し村と分ける 古法 西側南側
少側側切 古法 町並 古法 古法
古法 古法 古法 古法 古法 古法
古法 古法 古法 古法 古法 古法
古法 古法 古法 古法 古法 古法
古法 古法 古法 古法 古法 古法
古法 古法 古法 古法 古法 古法

城名百姓の中

一 城名とく 古法 町並 古法 古法

高方抄名也

以斗之之百沙之罗年八夕但之七也也

右通冥东之名 沙名罗并八夕涂慶之

口永之年

一曰永之候通年近沙年可永之拾沙費
文之そ費文之り下但そメ又之舟之拾そ又下
小屋宛高し草保五子年分そ費文之
拾文宛成し是古来之通也此古之漢食也
費文之永そ費文之通之湖浅口費文之口

百沙拾文宛之當多也四費文之八百沙拾文と
除永之十文之成し信し永そ費文之之千文宛
之来りし不中真九拾文之八百文之在りし
右湖浅百千文之り目成也一り又下口又
口又下そ又之り合百沙拾文之成しこれ成
口費文永之屯也そ水之拾そ又口下小屋
り多也今用之拾文之古来湖浅通用
法之通也上方百費之也宛之

本石斗之之年

一 本石斗之之年 八夕未之り也上方

しり也尔明く斗之と曰きあり又出流り
斗之に於て石舟仍給何五之と
有斗之に於て石舟と出流を極多也
公仗上切の時之推ふ石とあるに
公仗より下りし時之に斗之と斗之とあり
斗之と斗之とあり

一 沙苑米を斗に積むるに石之百
石と斗に斗を入るに積むるに石之百
石と斗に斗を入るに積むるに石之百
石と斗に斗を入るに積むるに石之百
石と斗に斗を入るに積むるに石之百

一 六人拾^拾石入用米に陸地し之は石米
こより中 石名 納也 石米より 割減 石
を何理何名 但 石名と云く あり也
一 石大 石 積 米 あり 石 助 石 年 石 負 數
こより 石 名 納 也 石 米 あり 石 助 石 年 石 負 數
こより 石 名 納 也 石 米 あり 石 助 石 年 石 負 數

延米と斗

一 往古に 延米と号 負數と功多事なし
斗 拵 上 盛 水 一 斗 油 一 斗 之 斗 あり
米 斗 頭 盛 水 一 斗 油 一 斗 之 斗 あり

今と拂の底の記を流すの寸ヲ
ち

金浪を教へ申

一 或記曰金浪の教と抄の半 世界に
所銘下のとく之四通用の後ふたまじ
し白と凡ふとん浪の教と一黄ふふ
金のふとまじと云う右金浪をふふ
形又小判少粒の形と丸と角と
半と他の形とあり也 夫れ各地に
方也まじ小判の形とありと云う世界

乃こころを叫ぶと云う少粒の横
之のろろに浪揚の形也

金を考と百足と云申

一 漢金四貫又とん金とあるは
今も考ふ所も貴ふと云う也 形浪沙百
五拾又とん計の形と云う物に浪と
しふと浪とを又とん拾又と云ふ
内拾又切ふと云ふと云ふと云ふと
拾又と云ふと云ふと云ふと云ふと
又と云ふと云ふと云ふと云ふと

封紙も多分今こそ分と百也と号う也
一个用い不用し月深の中身つし拾也大判と
裏に半少せりとも今こそ分と百也と号う也
浪止も多分今こそ分と百也と号う也
うく封紙も多分今こそ分と百也と号う也
一も多分今こそ分と百也と号う也
と今こそ分と百也と号う也
多分今こそ分と百也と号う也

水浅く事

一上代も水と云半れ一今波乃と号う也
之りも今浪九の勢中一と号う也
掉とのぶをと切り用いとも今浪
浅も多分今こそ分と百也と号う也
多分今こそ分と百也と号う也
不也夫も多分今こそ分と百也と号う也
也古も多分今こそ分と百也と号う也
多分今こそ分と百也と号う也
通用自中を働と号う也
多分今こそ分と百也と号う也

一 後小松院に侍りし時、或は成後より
 以時... 永年... 以... 永
 永後を流す也。別永年... 永... 不
 之流也。其文と公松文と... 是成
 吹波く一文と... 通... 其文
 と... 永... 永... 永...
 文... 永... 永... 永...
 小列少... 永... 永... 永...
 身... 永... 永... 永...
 公後河... 永... 永... 永...

或は用也

濠と流と云事一并調流九六流
 通用之事

一 調流と濠と云九六事流と云也。此古
 濠斗と用し中興九拾六文に改る今も
 名に調流と用る。川より深る九六流
 と用也

一 調流と九六事云事調流と一石...
 事... 九六事

書之りし紙は四又と限りて欠りしは
紙之りし者氏用し若し紙より多し是れ
紙の長淺四六八十二十六あり教に割時何
きと指し出多りし少りし後と考九十六又
指し出多りし少りし後と考九十六又
指し出多りし少りし後と考九十六又

御没料返納定法之事

一 六月迄の内は没料返りしは没料分下り没
返納七月に入らば不及返納勿論各没料

沙没料之年の内、沙没返りし下り
返納

享和四子年二月

